第七期小平市障害福祉計画第三期小平市障害児福祉計画策定のためのアンケート調査結果報告書

令和５年３月

小平市

目　次

1ページ　第１章　調査実施の概要

3ページ　１　調査の目的

3ページ　２　調査の設計

3ページ　３　実施期間

3ページ　４　回収結果

4ページ　５　報告書の見方

5ページ　第２章　調査結果

7ページ　１　記入者の状況

17ページ　２　医療の利用

25ページ　３　暮らしと地域

59ページ　４　日中の過ごし方

76ページ　５　外出

80ページ　６　災害時の対策

83ページ　７　情報の入手

88ページ　８　障害福祉サービス等の利用

113ページ　９　障がい理解や差別の解消

132ページ　10　新型コロナウイルス感染症の影響

136ページ　11　市に望む施策

140ページ　12　支援者の状況

157ページ　第３章　自由記述欄への意見

159ページ　１　身体障がいのある方

164ページ　２　知的障がいのある方

167ページ　３　精神障がいのある方

170ページ　４　難病等の方

172ページ　５　発達障がいのある方

175ページ　第４章　付属資料（調査票）

1ページ

第１章　調査実施の概要

2ページ

空白のページです。

3ページ

１　調査の目的

令和６年度から令和８年度を計画期間とする「第七期小平市障害福祉計画・第三期小平市障害児福祉計画」を令和５年度に策定するにあたり、計画策定に必要な基礎資料とするため、小平市内在住の障がいのある方々の日頃の生活状況や障害施策に対する意見や要望等を把握することを目的としています。

２　調査の設計

Ａ　身体障がい者　身体障害者手帳所持者から1,617人を無作為抽出　郵送による配布回収

Ｂ　知的障がい者　愛の手帳所持者から413人を無作為抽出　郵送による配布回収

Ｃ　精神障がい者　精神障害者保健福祉手帳所持者から641人を無作為抽出　郵送による配布回収

Ｄ　難病等の方　手帳を所持せず「小平市心身障害者福祉手当」を受給されている難病等の方から329人を無作為抽出　郵送による配布回収

Ｅ　発達障がいの方　対象者の把握が困難なため、障がい者支援課のほか、市内の公立小中学校・幼稚園・保育園・相談支援事業所・療育機関・健康センター・子ども家庭支援センターなどの関係機関等（約100か所）を通じて配付　各施設で配付　郵送による回収

３　実施期間

令和４年10月25日（火）から令和４年12月16日（金）

４　回収結果

4ページ

５　報告書の見方

選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがあります。

※本文中で「身体」は身体障がい者を、「知的」は知的障がい者を、「精神」は精神障がい者を、「難病」は難病等の方を、「発達」は発達障がいの方をそれぞれ示しています。

回答は各質問の回答者数（ｎ）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第２位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0％にならない場合があります。

複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0％を超える場合があります。

クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。

調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、もっとも高い割合のものを、２番目に高い割合のものを　、３番目に高い割合のものを斜字にしています。（無回答を除

く）

回答者数が１桁の場合、回答件数による表記としています。

回答者数が１桁の場合、有効回答とはみなされず、コメント内では言及していないことがあります。

5ページ

第２章　調査結果

6ページ

空白のページです。

7ページ

１　記入者の状況

（１）記入者（身体・知的・精神・難病・発達）

問　このアンケートにご記入いただく方はどなたですか。（１つに○）

「本人」が身体障がい者で61.1％、精神障がい者で76.9％、難病等の方で80.5％と、もっとも高くなっています。知的障がい者では「家族や支援者が本人の意向を考えて記入」が38.4％と、もっとも高くなっています。発達障がいの方では、「父母」が83.3％と、もっとも高くなっています。

8ページ

（２）年齢（身体・知的・精神・難病・発達）

問　あなたは何歳ですか。令和４年10月１日現在

（あなたとは、障がいのある方ご自身のことをいいます。）

身体障がい者と精神障がい者と難病等の方では「40～64歳」が、知的障がい者では「18～39歳」が、発達障がいの方では「６～14歳」が、もっとも高くなっています。

9ページ

（３）性別（身体・知的・精神・難病・発達）

問　性別はどちらですか。（１つに○）

「男性」が、身体障がい者と精神障がい者では約51％、知的障がい者では66.2％となっていますが、難病等の方では「女性」が67.0％となっています。また、発達障がいの方では、「男性」が64.3％となっています。

10ページ

（４）手帳の状況（身体・知的・精神・難病・発達）

問　障がいの手帳の等級はどれですか。（１つに○）

問　重複する障がいの手帳をもっていますか。（あてはまるものすべてに○）

「身体障害者手帳」を精神障がい者の8.6％が、「愛の手帳」を身体障がい者の8.3％と精神障がい者の0.8％が重複して持っています。また、「精神障害者保健福祉手帳」を身体障がい者の5.0％と知的障がい者の6.1％が重複して持っています。

発達障がいの方では、愛の手帳を33.3％が、精神障害者保健福祉手帳を21.4％が持っています。

身体障がい者では、身体障害者手帳「１級」を持っている人が33.8％ともっとも高く、精神障がい者では「２級」及び「３級」を持っている人が36.4％ともっとも高くなっています。

11ページ

知的障がい者では、愛の手帳「４度」を持っている人が53.0％ともっとも高く、身体障がい者では「２度」を持っている人が44.1％ともっとも高くなっています。

精神障がい者では、精神障害者保健福祉手帳「２級」を持っている人が47.1％ともっとも高く、身体障がい者では「１級」を持っている人が41.5％ともっとも高くなっています。

12ページ

（５）身体障がいの状況（身体）

問　主な身体障がいは次のうちどれですか。（１つに○）

問　主な身体障がい以外に重複する身体障がいは次のうちどれですか。

（あてはまるものすべてに○）

主たる障がいでは、「下肢障がい」「内部障がい」が28.0％ともっとも高く、次いで「体幹障がい」が8.2％、「聴覚障がい」が7.4％、「上肢障がい」が6.3％となっています。

重複する障がいでは、「下肢障がい」が17.5％ともっとも高く、次いで「上肢障がい」が16.0％となっています。

13ページ

（６）指定難病・発達障がい・高次脳機能障がい等（身体・知的・精神）

問　あなたは、下記のいずれかにあてはまりますか。（あてはまるものすべてに○）

身体障がい者では「あてはまるものはない」が54.3％、「指定難病の認定を受けている」が17.9％となっていますが、知的障がい者では「発達障がいがある」が54.0％、精神障がい者では「自立支援医療制度（精神通院）を利用している」が85.1％となっています。

14ページ

（７）要介護認定（身体・知的・精神・難病）

問　（年齢が40歳以上の方にうかがいます。）現在、介護保険の認定を受けています

か。（１つに○）

「要介護・要支援認定を受けている」が身体障がい者で25.1％となっています。また、知的障がい者では4.8％、精神障がい者では10.0％、難病等の方では4.2％となっています。

身体障がい者では、「要支援２」が7.2％、「要介護２」が5.1％となっています。

15ページ

（８）利用している介護保険サービス（身体・知的・精神・難病）

問　（年齢が40歳以上の方にうかがいます。）以下の介護保険サービスの中で、あなた

が利用しているものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

身体障がい者では、「福祉用具貸与」が9.2％、「訪問リハビリテーション」が7.3％、「訪問看護」が6.5％、知的障がい者では「訪問看護」「福祉用具貸与」「特定福祉用具購入」「介護予防・生活支援サービス事業（通所型）」が2.4％、精神障がい者では「訪問看護」が16.5％となっています。

16ページ

このページは表・グラフが表示されています。

17ページ

２　医療の利用

（１）難病等の方の病名（難病）

問　あなたのご病気は、どれですか。

「潰瘍性大腸炎」が29.7％ともっとも高く、次いで「全身性エリテマトーデス」が7.6％、「クローン病」が4.3％となっています。

18ページ

（２）病気の分かった時期（難病）

問　あなたが、回答された病気になった（または病気であることを知った）のは何歳頃

ですか。

「40～64歳」が49.7％、「18～39歳」が39.5％となっています。

19ページ

（３）継続的な医療受診（難病）

問　回答された病気のために、現在、継続的に医療を受けていますか。（１つに○）

「通院している」が94.6％となっています。

20ページ

（４）医療機関（難病）

問　（『（３）継続的な医療受診（難病）』で「入院している」から「通院と往診の両方をしている」までのいずれかをお答えの方へ）『（３）継続的な医療受診（難病）』で回答された病気のために、継続的に利用している医療機関はどこにありますか。（あてはまるものすべてに○）

「小平市を除く多摩地域」が39.0％ともっとも高く、次いで「小平市内」が35.6％となっています。

（５）通院方法（難病）

問　（『（３）継続的な医療受診（難病）』で「入院している」から「通院と往診の両方をしている」までのいずれかをお答えの方へ）主にどのような方法で通院していますか。（あてはまるものすべてに○）

「電車・地下鉄」が29.4％ともっとも高く、「バス」が22.0％、「自転車」が17.5％となっています。

21ページ

（６）必要な医療的ケア（身体・難病）

問　あなたは、必要な医療的ケアはありますか。（あてはまるものすべてに○）

身体障がい者・難病等の方いずれも「必要ない」が、それぞれ56.2％、74.1％となっていますが、そのほか、身体障がい者では「人工透析」が8.4％、「ストーマ」が5.4％、難病等の方では「点滴（ＩＶＨを含む）」が2.7％などが高くなっています。

22ページ

（７）医療等の困りごと（難病）

問　あなたは、医療や健康管理について、困ったり不便に思ったことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

「特に困ったことはない」が40.0％ともっとも高くなっているほか、「医療費の負担が大きい」が36.2％、「専門的な治療を行っている医療機関が近くにない」が17.8％となっています。

23ページ

（８）診断名等（発達）

問　診断名などありましたらお答えください。（あてはまるものすべてに○）

「広汎性発達障がい」が35.7％ともっとも高く、次いで「注意欠陥・多動性障がい（ＡＤＨＤ）」が33.3％となっています。

（９）広汎性発達障がいの診断名等（発達）

問　（『（８）診断名等』で「広汎性発達障がい」とお答えの方へ）診断名などありましたらお答えください。（あてはまるものすべてに○）

「知的障がいを伴う自閉症」「アスペルガー症候群」が33.3％ともっとも高く、次いで「高機能自閉症（高機能広汎性発達障がい）」が20.0％となっています。

24ページ

（10）診断を受けた時期（発達）

問　（『（８）診断名等』で「広汎性発達障がい」から「特定の診断名はついていない」

とお答えの方へ）最初に診断を受けたのは何歳のころですか。（１つに○）

「３歳～就学前」が41.0％と４割を超えています。次いで、「３歳以下」が17.9％、「小学生（１～３年）」が15.4％となっています。

25ページ

３　暮らしと地域

（１）暮らし方（身体・知的・精神・難病・発達）

①暮らし方

問　あなたは、どのようなかたちで暮らしていますか。週末だけ家に帰るような場合は、平日の状態について回答してください。（１つに○）

「家族・親族と一緒に暮らしている」が身体障がい者で74.2％、知的障がい者で75.3％、精神障がい者で60.8％、難病等の方で84.3％、発達障がいの方で90.5％と、すべての対象者でもっとも高くなっています。

また「ひとりで暮らしている」が精神障がい者で28.6％、身体障がい者では17.1％となっています。

26ページ

このページは表が記載されています。

27ページ

前回調査との比較

暮らし方について、令和元年度調査と比較をしたところ、「家族・親族と一緒に暮らしている」が、精神障がい者で３ポイント減少し、発達障がいの方では５ポイント減少しています。

28ページ

②同居している家族・親族

問　あなたと同居している家族・親族は誰ですか。（あてはまるものすべてに○）

「配偶者（夫または妻）」が身体障がい者では70.1％、難病等の方では75.6％ともっとも高く、「母」が知的障がい者で93.3％、精神障がい者で51.0％、発達障がいの方で97.4％ともっとも高くなっています。

29ページ

年齢別、同居している家族・親族【クロス集計】

年齢別に見ると、「０～17歳」と「18～39歳」ではすべての対象者で「母」や「父」が高くなっています。「40～64歳」と「65歳以上」では身体障がい者と難病等の方で「配偶者（夫または妻）」がもっとも高くなっています。

30ページ

このページは表が記載されています。

31ページ

このページは表が記載されています。

32ページ

（２）収入（身体・知的・精神・難病）

問　（年齢が18歳以上の方にうかがいます。）あなたにはどのような収入がありますか。（あてはまるものすべてに○）

「年金」が身体障がい者で67.1％、知的障がい者で48.8％、精神障がい者で47.5％ともっとも高くなっています。また、難病等の方では「一般就労による給料」が59.0％ともっとも高くなっています。

そのほか、「作業所などからの給料（工賃）」が知的障がい者で38.8％、「手当（小平市心身障害者福祉手当など）」が、身体障がい者で23.1％、難病等の方で24.0％と高くなっています。

33ページ

（３）生活上の心配（身体・知的・精神・難病・発達）

問　現在、あなたが特に困ったり、不安に思っていることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

身体障がい者と難病等の方で「障がいや病気（薬）のこと」が32.7％、48.6％ともっとも高くなっています。また、知的障がい者では、「就職や仕事のこと」が28.3％、精神障がい者では、「お金のこと」が54.5％、発達障がいの方では「将来のこと」が69.0％ともっとも高くなっています。

そのほか、発達障がいの方で「進学や勉強のこと」が61.9％、「学校などでの集団生活に関すること」が50.0％と高くなっています。

34ページ

このページは表が記載されています。

35ページ

このページは表が記載されています。

36ページ

（４）相談相手（身体・知的・精神・難病・発達）

問　あなたの相談相手は誰ですか。（あてはまるものすべてに○）

「家族や親族」が身体障がい者で79.6％、知的障がい者で83.3％、精神障がい者で69.0％、難病等の方で86.5％ともっとも高くなっています。他の回答として「友人・知人」が、身体障がい者で28.7％、精神障がい者で29.4％、難病等の方で42.7％、「医療機関（病院・診療所など）」が精神障がい者で39.6％、難病等の方で30.8％と高くなっています。

また、発達障がいの方では「医療機関（病院・診療所など）」が52.4％でもっとも高く、次いで「家族」及び「保育園・幼稚園・認定こども園・学校」が28.6％と高くなっています。

37ページ

このページは表が記載されています。

38ページ

このページは表が記載されています。

39ページ

（５）発達障がいをもっとも理解していてほしい人（発達）

問　発達障がいについて、もっとも理解していてほしい人はだれですか。（２つまでに○）

発達障がいの方では、「家族・親族」の割合が47.6％ともっとも高く、次いで「学校」が35.7％、「友人・知人」が21.4％となっています。

40ページ

（６）必要とする支援（身体・知的・精神・難病）

問　あなたが必要とする支援はどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

「特に必要としていない」が身体障がい者で45.9％、難病等の方で71.9％ともっとも高く、知的障がい者では「各種手続き（書類を書くなど）」が62.6％、精神障がい者では、「相談（サービスや困りごとなどについて）」が36.5％ともっとも高くなっています。

また、知的障がい者では、上位５位の回答の数値が他の対象者と比べて高くなっています。

41ページ

このページは表が記載されています。

42ページ

（７）自由時間（身体・知的・精神）

問　仕事（学校）や家事以外の自由時間をどのように過ごしていますか。（あてはまるものすべてに○）

身体障がい者と知的障がい者で「テレビ・ラジオ・新聞・ビデオ」が65.1％、61.6％ともっとも高く、次いで「家族との団らん」が43.2％、51.3％と高くなっています。

精神障がい者では、「心身の疲労回復」が56.9％ともっとも高く、次いで「インターネット・ＳＮＳ」が54.5％となっています。

43ページ

このページは表が記載されています。

44ページ

（８）将来の暮らし（身体・知的・精神・難病）

①３年後の暮らし方

問　３年後には、誰とどのようなかたちで暮らしていたいですか。（１つに○）

「家族・親族と一緒にくらしたい」がすべての対象者でもっとも高くなっており、身体障がい者で61.9％、知的障がい者で55.6％、精神障がい者で45.5％、難病等の方で76.8％となっています。

そのほか、身体障がい者と精神障がい者で「ひとりで暮らしたい」が13.2％と25.1％、知的障がい者で「グループホームで暮らしたい」が15.2％と高くなっています。

45ページ

対象別、暮らし方別に見た３年後の暮らし方【クロス集計】

３年後の暮らし方について、対象者の暮らし方別に見たところ、ひとり暮らしの方ではすべての対象者で３年後も「ひとりで暮らしたい」が、グループホームで暮らしている方でも難病等の方を除くすべての対象者で３年後も「グループホームで暮らしたい」が高くなっています。

他方、ひとり暮らしの方で、３年後の暮らし方は「わからない」と回答した方が身体障がい者、精神障がい者、難病等の方で２割を超えています。

46ページ

このページは表が記載されています。

47ページ

このページは表が記載されています。

48ページ

このページは表が記載されています。

49ページ

このページは表が記載されています。

50ページ

対象別、年齢別に見た３年後の暮らし方【クロス集計】

３年後の暮らし方について年齢別に見ると、０～17歳では難病等の方を除くすべての対象者で「家族・親族と一緒に暮らしたい」が高くなっています。そのほかの年齢でも、「家族・親族と一緒にくらしたい」がもっとも高いまたは２番目に高くなっています。

そのほか知的障がい者の18～64歳では「グループホームで暮らしたい」が24.0％、精神障がい者の18～64歳では「ひとりで暮らしたい」が27.1％と高くなっています。

51ページ

このページは表が記載されています。

52ページ

このページは表が記載されています。

53ページ

記入者別に見た３年後の暮らし方【クロス集計】

３年後の暮らし方について記入者別に見ると、ほとんどすべての対象者・記入者で「家族・親族と一緒にくらしたい」がもっとも高くなっています。また、すべての対象者において記入者が本人で、「ひとりで暮らしたい」と答えた方が「家族・親族と一緒にくらしたい」に次いで高くなっています。

身体障がい者と知的障がい者では、家族や支援者が本人の意向を考えて記入したとき、「家族・親族と一緒に暮らしたい」に次いで「グループホームで暮らしたい」が高くなっています。

54ページ

このページは表が記載されています。

55ページ

このページは表が記載されています。

56ページ

②地域で生活するために

問　あなたが、地域で生活しつづける、または、今後地域で生活するために必要なこと

は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

前問『①３年後の暮らし方』で「ひとりで暮らしたい」、「家族・親族と一緒に暮らしたい」、「友達など知り合いと一緒に暮らしたい」、「グループホームで暮らしたい」の“地域での暮らし”を希望された方に地域での生活で必要なことをたずねたところ、身体障がい者では「緊急時、災害時等の支援体制」が36.3％、知的障がい者では「相談支援体制の充実」が49.1％、精神障がい者と難病等の方で「経済的支援」が48.9％、29.6％ともっとも高くなっています。

また知的障がい者では「グループホームの整備」が39.4％となっています。

57ページ

このページは表が記載されています。

58ページ

（９）成年後見制度（知的・精神）

問　あなたは、「成年後見制度」を使うことについて、どう思いますか。（１つに○）

「わからない」が知的障がい者で52.0％、精神障がい者で53.7％ともっとも高くなっています。知的障がい者では「今後使うことも考えている」が33.3％、精神障がい者では「使いたくない」が20.8％と２番目に高くなっています。

59ページ

４　日中の過ごし方

（１）日中の過ごし方（身体・知的・精神・難病・発達）

①日中の過ごし方

問　平日の昼間を主にどこで（何をして）過ごしていますか。（１つに○）

身体障がい者では「自宅（家事・育児などを含む）」が43.7％ともっとも高くなっています。

また、知的障がい者、精神障がい者、難病等の方では「職場（作業所など「福祉的就労」の場も含む）」が39.4％、41.6％、51.9％ともっとも高くなっています。

発達障がいの方を対象とした調査は、他の対象者とは設問が異なっており、「幼稚園・保育園・認定こども園、学校、障害児通所施設などに通っている（在籍している）」が88.1％と、もっとも高くなっています。

60ページ

このページは表が記載されています。

61ページ

このページは表が記載されています。

62ページ

②発達障がいの方の通園・通学先

問　（『日中の過ごし方』で「幼稚園・保育園・認定こども園、学校、障害児通所施設などに通っている（在籍している）」とお答えの方にうかがいます）通園・通学先はどこですか。（２つまでに○）

「特別支援学級（固定級）」が32.4％ともっとも高く、次いで「障害児通所施設」が27.0％となっています。

③発達障がいの方が活動の場に通えているか

問　（『日中の過ごし方』で「幼稚園・保育園・認定こども園、学校、障害児通所施設などに通っている（在籍している）」とお答えの方にうかがいます）日中活動の場に通えていますか。（１つに○）

「通えている」が62.2％となっています。

63ページ

（２）就労の状況（身体・知的・精神・難病・発達）

①就労形態

問　あなたは、どのような就労形態で働いていますか。（１つに○）

日中の過ごし方に「職場」と回答された方に、その就労形態についてたずねたところ、身体障がい者と難病等の方で「正社員」がもっとも高く、46.4％と49.0％となっています。

また、知的障がい者では「作業所などでの福祉的就労」が47.4％ともっとも高く、精神障がい者では「パート・アルバイト」が37.7％ともっとも高くなっています。

64ページ

②仕事につくきっかけ

問　仕事（福祉的就労を含む）につくきっかけは何でしたか。（１つに○）

身体障がい者では、「新聞・広告などで自分で探した」が16.3％、知的障がい者では「学校での進路指導・実習」が61.5％、精神障がい者では「ハローワークの紹介」が19.8％と高くなっています。

そのほか、「その他」の回答が身体障がい者で25.0％、精神障がい者で20.8％となっています。

65ページ

対象者、働き方別に見る仕事につくきっかけ【クロス集計】

就労形態別にみると、身体障がい者の正社員では「新聞・広告などで自分で探した」が22.0％、作業所などでの福祉的就労に就いている方では「学校での進路指導・実習」が33.3％となっています。

そのほか、「その他」と答えた方が正社員で34.1％、自営業で37.5％となっています。

66ページ

知的障がい者では、「学校での進路指導・実習」が正社員で76.9％、パートアルバイトで68.4％、作業所などでの福祉的就労の方で51.4％といずれも５割を超えています。なお、就労形態による大きな差はみられません。

67ページ

精神障がい者では、パート・アルバイトで「ハローワークの紹介」が27.5％、作業所などでの福祉的就労で「相談機関（地域生活支援センターあさやけ・地域自立生活支援センターひびきなど）」が25.0％と高くなっています。

そのほか「その他」が正社員で23.1％、作業所などでの福祉的就労の方が41.7％、自営業の方が75.0％となっています。

68ページ

③仕事、就労での困りごと

問　仕事（福祉的就労を含む）をするうえで困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

身体障がい者と知的障がい者では「特に困っていることはない」が37.8％、38.5％ともっとも高く、精神障がい者と難病等の方では「給与が少ない」が49.1％、41.7％ともっとも高くなっています。

69ページ

このページは表が記載されています。

70ページ

対象者別、働き方別に見る仕事、就労での困りごと【クロス集計】

身体障がい者では、「特に困っていることはない」が正社員で34.1％、パート・アルバイト42.6％、作業所などでの福祉的就労で53.3％、自営業で56.3％ともっとも高くなっています。そのほか、「通勤が大変」が正社員とパート・アルバイトで２割を超えています。

71ページ

知的障がい者では、正社員で「特に困っていることはない」との回答が61.5％ともっとも高くなっています。一方で、パート・アルバイトと作業所などの福祉的就労では「給与が少ない」との回答が31.6％、45.9％ともっとも高くなっています。

72ページ

精神障がい者では、「給与が少ない」が就労形態によらず高くなっています。

そのほか、正社員で「職場の人間関係が難しい」が34.6％、パート・アルバイトで「職場での身分が不安定」が30.0％と高くなっています。

73ページ

難病等の方では、「給料が少ない」が正社員で42.6％、パート・アルバイトで46.9％、自営業で42.9％ともっとも高くなっています。

また、「通勤が大変」が正社員で23.4％、パート・アルバイトで28.1％、自営業で28.6％となっているほか、「仕事がきつい」が正社員で21.3％、パート・アルバイトで18.8％となっています。

74ページ

④就労への支援

問　どのような支援があれば、働きたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

日中、学校でも職場でもない過ごし方をしていると回答した方に、就労への支援についてたずねたところ、「働くことは難しい」が身体障がい者で40.8％、知的障がい者で40.0％ともっとも高くなっています。

また、精神障がい者では「職場の環境や仕事の内容、時間などの配慮」が38.2％、「就職の相談や仕事の紹介などの支援」が27.5％となり他の対象者よりも高くなっています。

75ページ

（３）３年後の働き方（身体・知的・精神）

問　（年齢が15歳以上の方にうかがいます）３年後に働いているとしたら、どのような働き方をしたいですか。（１つに○）

「今のままでよい」が知的障がい者で31.8％、精神障がい者で21.8％ともっとも高くなっています。また、身体障がい者では「働くことは難しい」が22.8％ともっとも高くなっています。

そのほか、精神障がい者では「正社員として働きたい」が14.4％、「臨時・パート・アルバイトで自分の生活時間に合わせた働き方をしたい」が14.8％となっています。

76ページ

５　外出

（１）一緒に外出する人（身体・知的・精神）

問　外出するときは主にどなたと一緒に出かけますか。（１つに○）

「家族・親族」が身体障がい者で43.3％、知的障がい者で54.5％ともっとも高く、精神障がい者では「ほとんどひとりで外出する」が54.5％ともっとも高くなっています。

77ページ

（２）外出時の困りごと（身体・知的・精神）

問　外出するとき困難に思われることはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

身体障がい者では、「道路に段差が多い」が26.7％ともっとも高く、次いで「駅などにエレベーターなどが少ない」が14.5％となっています。知的障がい者では、「会話が困難」が30.8％ともっとも高く、次いで「支援者がいない」が18.7％となっています。また、精神障がい者では、「人目が気になる」が30.6％ともっとも高く、次いで「経費がかかる」が25.5％となっています。

78ページ

このページは表が記載されています。

79ページ

（３）外出状況（身体・知的・精神）

問　通勤、通学、通院を除く外出状況は次のうちどれですか。（一番近いもの１つに○）

すべての対象者で「週に１～３回」がもっとも高く、身体障がい者では41.0％、知的障がい者では39.4％、精神障がい者では45.1％となっています。

80ページ

６　災害時の対策

（１）災害時の避難（身体・知的・精神・難病）

問　地震や火事など災害時の避難についてうかがいます。（１つに○）

「ひとりで避難できる」が身体障がい者で48.5％、精神障がい者で65.5％、難病等の方で88.1％ともっとも高くなっています。また、知的障がい者では「家族や支援者の手助けで避難できる」が55.1％ともっとも高くなっており、「ひとりで避難できる」は23.2％となっています。

「ひとりでは避難できない」との回答は、身体障がい者では16.5％、知的障がい者では15.7％、精神障がい者では8.6％となっています。

81ページ

（２）災害時対策（身体・知的・精神・難病）

問　あなたは、災害時の対策を立てていますか。（あてはまるものすべてに○）

「避難場所がわかる」は身体障がい者で42.6％、精神障がい者で43.9％、難病等の方で55.7％ともっとも高くなっており、知的障がい者でも26.3％と２番目に高くなっています。

一方で、「特に対策を立てていない」では、身体障がい者で22.7％、知的障がい者で26.3％、精神障がい者で31.8％となっています。

82ページ

このページは表が記載されています。

83ページ

７　情報の入手

（１）情報の入手先（身体・知的・精神・難病）

問　福祉関連の情報を主にどこから入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

「都や市などの広報」が身体障がい者で63.4％、精神障がい者で45.5％、難病等の方で63.8％ともっとも高くなっており、知的障がい者でも33.8％と２番目に高くなっています。「インターネット・ＳＮＳ」は精神障がい者で43.1％、難病等の方で42.7％と高くなっています。また、「相談機関（あさやけ、ひびき、ほっとなど）」は知的障がい者で28.8％、精神障がい者で20.8％となっています。

84ページ

このページは表が記載されています。

85ページ

（２）情報のわかりやすさ（身体・知的・精神・難病）

①情報のわかりやすさ

問　市や公的機関から入手した福祉関連の情報は、わかりやすいものになっていますか。（１つに○）

すべての対象者で「どちらともいえない」がもっとも高く、53.0～64.9％となっています。「わかりやすい」は身体障がい者で25.5％、精神障がい者で22.7％、「わかりにくい」は知的障がい者で22.2％、精神障がい者と難病等の方で20.0％となっています。

86ページ

②情報の理解しにくい点

問　どのような点が理解しにくいですか。（あてはまるものすべてに○）

すべての対象者で「情報の内容が難しすぎる」が51.6～64.9％ともっとも高くなっています。「医療、保健、福祉の連携不足でわかりにくい」についても、すべての対象者で40.5～54.9％と高くなっています。また、精神障がい者では「情報が多すぎる」が43.1％と高くなっています。

87ページ

（３）情報入手で困ること（身体・知的・精神・難病）

問　福祉関連情報の入手について困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

「特に困っていない」が身体障がい者で37.9％、難病等の方で48.1％ともっとも高くなって

います。一方で、「どこに情報があるかわからない」が知的障がい者で39.4％、精神障がい者で

44.3％と高くなっています。

そのほか、「情報の内容が難しい」は知的障がい者で21.7％、精神障がい者で21.2％となって

います。

88ページ

８　障害福祉サービス等の利用

（１）サービスの利用状況と利用意向（身体・知的・精神・難病・発達）

問　障がいのある方向けの全国共通の障害福祉サービスや、小平市が実施している地域生活支援事業などについて、障害福祉サービスの利用状況と満足度等についておたずねします。

Ａ.　現在、利用しているサービスに〇をつけてください。

Ｄ.　現在は利用していないが、今後利用したいサービスに○をつけてください。

障害福祉サービス

①　ヘルパー

ヘルパーについては、知的障がい者の「行動援護」が【利用状況】で13.6％、発達障がいの方の「行動援護」が【利用意向】で21.4％と高くなっています。また、「居宅介護」の【利用状況】が身体障がい者で8.1％と他の対象者より高く、【利用意向】では発達障がいの方を除き全対象者で4.0％から9.8％となっています。

89ページ

②　昼間の活動

昼間の活動については、知的障がい者の【利用状況】で「生活介護」が10.6％、「就労継続支（Ｂ型）」が16.7％、「短期入所」が8.6％と高くなっており、「就労継続支援（Ｂ型）」は精神障がい者でも12.9％と、高くなっています。【利用意向】をみると、発達障がいの方では「就労移行支援」「短期入所（ショートステイ）」

が19.0％と高くなっています。

90ページ

③　住まい

住まいの【利用状況】をみると、知的障がい者では「共同生活援助（グループホーム）」が9.6％と、他の対象者よりも約６ポイント高くなっています。【利用意向】でも、知的障がい者では「共同生活援助（グループホーム）」が14.1％と、他の対象者よりも４ポイント以上高くなっています。

91ページ

④　相談

相談の【利用状況】をみると、知的障がい者では「計画相談支援」が35.4％と、他の対象者よりも16ポイント以上高くなっています。【利用意向】をみると、精神障がい者では「計画相談支援」が7.8％、「地域定着支援」が8.2％と高くなっています。

92ページ

⑤　子ども

子ども向けの事業の【利用状況】をみると、発達障がいの方では「放課後等デイサービス」が38.1％と他の対象者よりも21ポイント以上高くなっているほか、「児童発達支援」が31.0％と高くなっています。また、知的障がい児では、「放課後等デイサービス」が16.7％、「障害児相談支援」が16.2％となっています。

【利用意向】についても、発達障がいの方では「放課後等デイサービス」が16.7％と他の対象者よりも10ポイント以上高くなっているほか、「障害児相談支援」が9.5％、「保育所等訪問支援」が7.1％と高くなっています。

93ページ

地域生活支援事業等

項目数が多かったため、選択肢の順番にそって前半と後半の２つに分割して掲載します。

①　前半７項目

地域生活支援事業等の【利用状況】をみると、知的障がい者では「移動支援事業（個別移動支援）」が14.6％と、他の対象者よりも11ポイント以上高くなっています。また、精神障がい者では「地域活動支援センター事業」が12.2％と高くなっています。【利用意向】をみると、発達障がいの方では「日中一時支援事業」が11.9％、知的障がい者では「地域自立生活支援センターひびき」が13.1％と高くなっています。

94ページ

②　後半７項目

地域生活支援事業等の後半７項目の【利用状況】をみると、発達障がいの方では「児童発達支援センター」が16.7％と、他の対象者よりも14ポイント以上高く、「言語相談訓練」が14.3％と、他の対象者よりも12ポイント以上高くなっています。【利用意向】をみると、発達障がいの方で「児童発達支援センター」が14.3％となっています。

95ページ

（２）利用しているサービスの満足度など（身体・知的・精神・難病・発達）

問　障害福祉サービスや地域生活支援事業等の利用状況と満足度等についておたずねします。

Ｂ．利用しているサービスに満足していますか。（あてはまる番号に○）

Ｃ．不満なサービスは、その理由を選んでご記入ください。（あてはまるものすべてを選んでください）

96ページ

障害福祉サービス

身体障がい者では、満足度については「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が、「放課後等デイサービス（障害児通所支援）」で73.7％ともっとも高く、次いで「生活介護」が70.2％、「自立訓練（機能訓練）」が64.1％となっています。

97ページ

不満なサービスの理由については、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

98ページ

知的障がい者では、満足度については「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が、「計画相支援」で67.1％ともっとも高く、次いで「共同生活援助」が63.1％、「児童発達支援（障害児通所支援」が61.6％となっています。

99ページ

不満なサービスの理由については、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

100ページ

精神障がい者では、満足度については「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が、「計画相談支援」で58.3％、「居宅介護」「就労定着支援」で50.0％となっています。

101ページ

不満なサービスの理由については、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

102ページ

難病等の方では、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

不満なサービスの理由については、有効回答数が０人となっています。

103ページ

発達障がいの方では、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

不満なサービスの理由については、有効回答数が０人となっています。

104ページ

地域生活支援事業等

身体障がい者では、満足度については「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が、「日常生活用具給付等事業」で64.8％、「移動支援事業（個別移動支援）」が50.0％となっています。

105ページ

不満なサービスの理由については、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

106ページ

知的障がい者では、満足度については「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が、「地域自立生活支援センターひびき」で88.9％ともっとも高く、次いで「移動支援事業（個別移動支援）」で55.1％、「日中一時支援事業」で45.0％となっています。

107ページ

不満なサービスの理由については、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

108ページ

精神障がい者では、満足度については「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が、「地域活動支援センター事業（あさやけ・はばたき）」で61.3％となっています。

109ページ

不満なサービスの理由については、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

110ページ

難病等の方では、地域生活支援事業等についての有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

不満なサービスの理由については、有効回答数が０人となっています。

111ページ

発達障がいの方では、地域生活支援事業等についての有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

112ページ

不満なサービスの理由については、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

113ページ

９　障がい理解や差別の解消

（１）地域の理解を深めるために必要なこと（身体・知的・精神・難病・発達）

問　あなたは、障がいのある人もない人も共に住み慣れた地域で生活できるように地域の理解を深めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（３つまでに○）

「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が身体障がい者では27.8％、難病等の方では45.5%、発達障がいの方では73.8%ともっとも高くなっているほか、知的障がい者で38.9%、精神障がい者で32.5％とすべての対象者で２位以内に入っています。

知的障がい者では「障がい者の地域生活についての理解の促進」が40.4％、精神障がい者では「障がい者の一般企業への就労の促進」が39.6％ともっとも高くなっています。また、「障がい者の一般企業への就労の促進」および「障がい者の地域生活についての理解の促進」はすべての対象者で３位以内に入っています。

114ページ

このページは表が記載されています。

115ページ

年齢別に見る、地域の理解を深めるために必要なこと【クロス集計】

年齢別で見ると、身体障がい者ではすべての年齢で、「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が20.6％～50.0％ともっとも高くなっています。

116ページ

知的障がい者の０～17歳では、「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が56.5％ともっとも高くなっています。また、すべての年齢で「障がい者の地域生活についての理解の促進」が２位以内に入っています。

117ページ

精神障がい者の０～17歳では、「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が75.0％ともっとも高くなっています。また、18～64歳で「障がい者の一般企業への就労の促進」が43.8％ともっとも高くなっています。

118ページ

難病等の方の18～64歳では、「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が47.6％ともっとも高く、65歳以上でも39.5％と高くなっています。

119ページ

発達障がいの方の０～17歳では、「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が82.4％ともっとも高くなっています。また、18～64歳で「障がい者の一般企業への就労の促進」が66.7％と高くなっています。

120ページ

（２）障がいを理由とする差別や偏見（身体・知的・精神・難病・発達）

問　あなたは、障がいを理由とする差別や偏見を感じたことがありますか。（１つに○）

「ある」と「少しある」を合わせた『ある』が、身体障がい者では37.6％、知的障がい者では64.7％、精神障がい者では62.4％、難病等の方では31.4％、発達障がいの方では73.8％となっています。

121ページ

（３）差別や偏見を感じた場面（身体・知的・精神・難病・発達）

問　差別や偏見を感じたのはどのような場面ですか。（あてはまるものすべてに○）

「人間関係」が身体障がい者では35.7％、知的障がい者では49.2％、精神障がい者では39.6％、難病等の方では46.6％ともっとも高く、発達障がいの方では「教育・育児」が80.6％でもっとも高くなっています。

また、「人間関係」はすべての対象者で２位以内に入っているほか、「言葉遣い・態度」も知的障がい者で44.5％などすべての対象者で上位回答になっています。

122ページ

このページは表が記載されています。

123ページ

年齢別に見る、差別や偏見を感じた場面【クロス集計】

年齢別で見ると、身体障がい者の０～17歳で「教育・育児」「言葉遣い・態度」が47.1％、18～64歳で「仕事や収入」が43.8％ともっとも高くなっています。

また、「人間関係」はすべての年齢で３位以内に入っています。

124ページ

知的障がい者の０～17歳では「教育・育児」が56.8％、18～64歳では「人間関係」が52.9％ともっとも高くなっています。

125ページ

精神障がい者の０～17歳では「教育・育児」が62.5％ともっとも高くなっています。また、18～64歳では「人間関係」が45.2％、65歳以上では「仕事や収入」が12.5％ともっとも高くなっています。

126ページ

難病等の方の18～64歳では「仕事や収入」が54.2％ともっとも高くなっています。また、「人間関係」が18～64歳で47.9％、65歳以上で44.4％となっています。

127ページ

発達障がいの方の０～17歳では「教育・育児」が91.3％ともっとも高くなっています。また、18～64歳では「人間関係」が66.7％ともっとも高くなっています。

128ページ

（４）差別や偏見を感じた時の相談相手（身体・知的・精神・難病・発達）

問　差別や偏見を感じた時は誰に相談しますか。（１つに○）

「家族・友人・知人」が、身体障がい者では36.9％、知的障がい者では52.0％、精神障がい者では42.4％、難病等の方では43.8％、発達障がいの方では47.6％ともっとも高くなっています。

129ページ

年齢別に見る、差別や偏見を感じた時の相談相手【クロス集計】

年齢別にみると、身体障がい者ではすべての年齢で「家族・友人・知人」がもっとも高くなっています。

知的障がい者では、「家族・友人・知人」が０～17歳で53.2％、18～64歳で53.6％ともっとも高くなっています。

130ページ

精神障がい者では、すべての年齢で「家族・友人・知人」がもっとも高くなっています。

難病等の方では、18～64歳と65歳以上で「家族・友人・知人」がもっとも高くなっています。

131ページ

発達障がいの方では、０～17歳で「家族・友人・知人」が52.9％ともっとも高くなっています。

132ページ

10　新型コロナウイルス感染症の影響

（１）新型コロナウイルス感染症の影響による日常生活の変化

（身体・知的・精神・難病・発達）

問　新型コロナウイルス感染症の影響により、どのような日常生活の変化がありましたか。（あてはまるものすべてに〇）

「社会参加、余暇活動の外出機会の減少」が、身体障がい者では32.5％、知的障がい者では30.3％、精神障がい者では35.7％、難病等の方では37.3％、発達障がいの方では61.9％ともっとも高くなっています。

また、「パソコン、スマートフォンの利用の増加」が、精神障がい者では29.0％、難病等の方では27.0％、発達障がいの方では50.0％となっています。

133ページ

年齢別に見る、新型コロナウイルス感染症の影響【クロス集計】

年齢別にみると、身体障がい者では、すべての年齢で「社会参加、余暇活動の外出機会の減少」がもっとも高くなっています。

また、「パソコン、スマートフォンの利用の増加」が０～17歳で36.7％、18～64歳で28.7％となっています。

134ページ

知的障がい者では、０～17歳と18～64歳で「社会参加、余暇活動の外出機会の減少」がもっとも高くなっています。

精神障がい者では、18～64歳で「社会参加、余暇活動の外出機会の減少」が38.1％ともっとも高くなっています。

135ページ

難病等の方では、18～64歳と65歳以上で「社会参加、余暇活動の外出機会の減少」が、37.9％、34.2％ともっとも高くなっています。

発達障がいの方では、０～17歳で「社会参加、余暇活動の外出機会の減少」が64.7％ともっとも高くなっています。

136ページ

11　市に望む施策

（１）充実させるべき障がい者施策（身体・知的・精神・難病・発達）

問　市の障害福祉施策について、今後、特に力をいれてほしいことは何ですか。（５つまでに○）

身体障がい者では、「障がい者が利用しやすい道路や公共施設などのバリアフリーの推進」が25.9％、知的障がい者では、「グループホームなどの住まいの場の充実」が30.8％、精神障がい者では、「障がい者のための身近な相談支援体制の充実・機能強化（地域生活支援センターあさやけ、地域自立生活支援センターひびきなど）」が25.5％ともっとも高くなっています。

また、難病等の方では、「保健・医療、福祉、教育の連携と一貫した支援」が28.1％、発達障がいの方では、「ライフステージ（入学、卒業、就職など）で途切れることのない一貫した支援」が61.9％ともっとも高くなっています。

137ページ

このページは表が記載されています。

138ページ

このページは表が記載されています。

139ページ

このページは表が記載されています。

140ページ

12　支援者の状況

（１）主な支援者（身体・知的・精神・難病）

問　あなたは障がいのある方からみてどのような関係にあたりますか。（１つに○）

身体障がい者では、「配偶者（夫または妻）」が35.5％、知的障がい者では、「母」が69.1％ともっとも高くなっています。

また、精神障がい者では、「母」が27.0％、難病等の方では、「配偶者（夫または妻）」が11.9％ともっとも高くなっています。

141ページ

（２）支援者の性別（発達）

問　性別についてお答えください。

「女性」が76.2％、「男性」が11.9％となっています。

（３）支援者の年齢（身体・知的・精神・難病・発達）

問　あなたは何歳ですか。令和４年10月１日現在

すべての対象者で、40～64歳がもっとも高く、身体障がい者で23.3％、知的障がい者で59.7％、精神障がい者で32.7％、難病等の方で51.6％、発達障がいの方で47.6％となっています。

142ページ

（４）支援者の相談相手（身体・知的・精神・難病）

問　あなたの相談相手は誰ですか。（あてはまるものすべてに○）

すべての対象者で「家族や親族」がもっとも高く、身体障がい者で40.2％、知的障がい者で71.8％、精神障がい者で39.6％、難病等の方で77.4％となっています。

また、「友人・知人」が知的障がい者で33.6％などすべての対象者で３位以内に入っているほか、「医療機関（病院・診療所など）」が身体障がい者で11.6％、知的障がい者で27.5％、精神障がい者で20.1％となっています。

143ページ

このページは表が記載されています。

144ページ

（５）支援者の情報入手先（身体・知的・精神・難病）

問　福祉関連の情報を主にどこから入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

「都や市などの広報」が、身体障がい者で33.9％、知的障がい者で36.2％、精神障がい者で28.3％、難病等の方で58.1％ともっとも高くなっています。

また、「インターネット・ＳＮＳ」が、難病等の方で58.1％などすべての対象者で３位以内に入っています。

145ページ

このページは表が記載されています。

146ページ

（６）支援者を交代してくれる人（身体・知的・精神・難病）

問　介助・支援を交代してくれる人はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

身体障がい者では、「子」が18.3％、知的障がい者では、「配偶者（夫または妻）」が47.7％ともっとも高くなっています。

「交代してくれる人はいない」が、精神障がい者で30.8％、難病等の方で32.3％ともっとも高くなっています。

147ページ

（７）交代すると助かること（身体・知的・精神・難病）

問　日常の介助・支援のなかで、他の人に代わってもらえると助かることは、どんなことですか。（あてはまるものすべてに○）

「特にない」が、身体障がい者で24.6％、精神障がい者で30.2％、難病等の方で64.5％ともっとも高くなっています。

また、知的障がい者では、「外出」が34.9％ともっとも高くなっています。

148ページ

（８）本人のことでの悩み（身体・知的・精神・難病・発達）

問　ご本人（宛名の方）のことであなたが悩んでいること、心配に思うことはありますか。（３つまでに○）

「将来の生活設計のこと」は身体障がい者で14.8％、知的障がい者で45.6％、精神障がい者で23.9％、難病等の方で32.3％、発達障がいの方で42.9％とすべての対象者で３位以内に入っています。また、発達障がいの方では、「就職や仕事のこと」が52.4％ともっとも高く、次いで「進学・勉強のこと」が45.2％となっています。

149ページ

このページは表が記載されています。

150ページ

（９）支援での悩み（身体・知的・精神・難病・発達）

問　ご本人（宛名の方）を介助・支援するにあたって、あなたご自身が悩んでいることはありますか。（３つまでに○）

「健康のこと」が、身体障がい者で23.6％、精神障がい者で25.8％、難病等の方で38.7％ともっとも高くなっています。

「自分や家族の将来の生活設計のこと」が、身体障がい者で12.4％、知的障がい者で36.2％、精神障がい者で18.9％、発達障がいの方で31.0％と、難病等の方を除くすべての対象者で３位以内に入っています。

「経済的なこと」が、知的障がい者で24.2％、精神障がい者で21.4％、発達障がいの方で47.6％と難病等の方を除くすべての対象者で３位以内に入っています。

151ページ

このページは表が記載されています。

152ページ

（10）発達障がいについての相談時の年齢（発達）

問　お子さんの発達や行動などについて気になり始めたのは何歳のころですか。（１つに○）

３歳以下が59.5％ともっとも多く、次いで３歳～就学前が16.7％となっています。

153ページ

（11）発達障がいについての相談のきっかけ（発達）

問　お子さんの発達や行動などについて相談したきっかけは何でしたか。（あてはまるものすべてに○）

「他の子どもとの違いを感じたから」が50.0％ともっとも高く、次いで「子どもを見て違和感を感じたから」が31.0％、「健康診査（１歳半、３歳児）で声をかけられたから」が19.0％となっています。

154ページ

（12）発達障がいについての最初の相談先（発達）

問　家族、知人以外で、気になったことについて最初にどこで（誰に）相談しましたか。（１つに○）

「医療機関（病院・診療所など）」が40.0％ともっとも高く、次いで「健康センター」が22.9％となっています。

155ページ

（13）今後望む支援（発達）

問　今後、どのような支援を望みますか。（３つまでに○）

「就労支援」が38.1％ともっとも高く、次いで「ソーシャルスキル（買い物、宿泊、対人などの社会適応）に関する療育」が35.7％、「学習サポート」が33.3％となっています。

156ページ

空白のページです。

157ページ

第３章　自由記述欄への意見

158ページ

空白のページです。

159ページ

その他ご意見、ご要望などございましたら、ご自由にお書きください。

調査票の巻末の自由記述欄に記入されたご意見などを、調査票の種類ごとに主題（テーマ）別に分類しています。記述内容を一部、修正している場合があります。

１　身体障がいのある方

（１）介助者への支援について

＜主な意見＞

在宅生活22年の生活全般すべての介護を必要とする障害者である主人が、今まで利用していた入浴事業所から突然契約解除の通知を受け、以後、主人は入浴できず、突然の出来事に本当に困っている。ケアマネジャーが色々と事業所を探しているが、仲々困難とのこと。よって、妻が毎日お世話をしているが、加齢による疲れが目立ってきている。一日でも早くお風呂に入れてあげたい。

（２）交通やバリアフリー、移動支援について

＜主な意見＞

小平駅の階段の段差が分かりにくい。目印を分かりやすくしてほしい。バスの行き先の音声案内をしてほしい。

歩道の段差が高い。

小平駅バス停の段差に分かりやすいペイントをしてほしい。（段差が分かりづらく困っている。）

未だに段差の列が多い。横断歩道が渡りづらい。交通機関に対して、なぜ女性専用車両があるのに障がい者車両はないのか。優先席に健常者が座っており、席を譲ってくれない（スマホ、寝たふり）。バスも同じ。

一人での移動時、電動車椅子を利用しているが、歩道の状態が悪く、通れない場所が多くある。歩道の傾斜が強すぎて渡れない横断歩道や、劣化で穴のあいたコンクリートも多く、自転車とすれ違う際に危ないことがある。ぶるべー号やタクシーは電動車椅子が乗れず、福祉タクシーや公共バスは午後10時以降ほとんど利用できないため、仕事後の通院で帰りが遅くなると徒歩での帰宅になり、より道が危険に感じる。道路の改修、交通手段の充実化を検討してほしい。

通所２ヶ所に通い送迎が必要だが、家の前、近辺の道が狭いため、バスではなくワゴン車があると助かる。

車椅子を使っている。歩道と車道の間など段差が多く疲れる。（花小金井駅近くのスーパーのある通りの２ヶ所の信号、段差が大きい）。踏切の段差も辛い。

現在介助、支援を受けていないが、外出（病院等）する時は自動車を自分で運転している。遠方への運転や駐車場の確保が難しく、外出が減っている。

160ページ

足に障害があるが、まだ１人で頑張っていろいろやっている。夫に手助けを時々してもらっている。今は自分で車の運転もするが、あと数年で免許の返納を考えている。花小金井駅を利用しているので、健康センターや市役所等には不便である。なんとかコミュニティバスを通してほしい。

市内道路の段差（急なスロープ、側溝の網目の太さ）。市内公共施設の障がい者（車椅子用）駐車場の少なさ、狭さ。

理学療法士の監督、アドバイスなし（と思われる）道路、施設の設営。

ある程度の差別はしかたがないが、ＪＲ線など（健常者が）優先席に座っている。そうであるならば料金を半額にしてほしい。そうすれば何の文句も言えないだろう。イギリス、フランスはもう実行している。ＪＲなどの割引はあるが、日常生活で必要なのはそんなところではないのか。そうすれば、もう少し障がい者と健常者が関わることも多くなると思う。

歩道の道幅を広く取ってほしい（自転車と対面すると通れなくなる）。

視覚障害２級（白杖未使用）の者としては、歩道上にある自転車や店先の商品台等々、常に不安（ぶつかる、転ぶ）を抱えながら通っている。可能な限りでの改善をお願いしたい。

コミュニティバス等が公共施設等に乗り入れできると大変助かる。

単独で行動範囲が限られるため非常に不便。車椅子での生活しかできず残念。

（３）施設等の入所や利用について

＜主な意見＞

現在グループホームを利用しているが、看取りまでグループホームで引き受けるという体制を作ってほしい。

（４）就労について

＜主な意見＞

企業における障害者雇用の間口をもっと広げて欲しい。特に障がいに合わせた、より添った仕事内容を考えて、正社員の道を開いてほしい。

（５）福祉サービス等の利用について

＜主な意見＞

小平市心身障害者福祉手当やタクシーチケットは大変ありがたい。

通院している病院が遠いため、タクシー券は大変ありがたい。

障がい者が受けるデイケアの期間をエンドレスで対応できれば助かる。

夫が心原性脳塞栓病で左前頭葉言語障害となり、ウォーキングポールを使って言語訓練に通院したが、コロナ注射を２回打ち、足、腰が不自由になり、要介護１から４になり、おむつ生活になり、週２回のデイサービスに出掛けている。夫の外出日に私の予定を入れ、また、ほっとする時間でもある。老老介護生活を送っている。

161ページ

（６）医療等について

＜主な意見＞

福祉事務所でもらった小平市内に登録がある病院一覧（身体障害者手帳の診断書が書ける医師がいる病院一覧）にある病院に、リハビリで通院している。その病院で障がい者認定の申請で必要な医師からの診断書を書いてもらおうとしたが、入院したことがある患者のみが対象と断られた。これでは一覧に載せる意味がない。一覧に注意事項として書くなり、削除するべきではないか。診断書を書くための特別な条件があるのか、登録してある医師名と病院名のスクリーニングをしてみてはどうか。

東京都以外の他県で診察した場合、病院によっては一時立て替で全額支払う場合がある。１ヶ月半位に立て替えた分は振込まれるが、その度に福祉事務所に書類を提出しなければならない。全国どこでも診察しても、立て替えはなしにしてほしい。

手当、医療費助成に関しては、東京都（民）だけあって、他より充実しているのはありがたい。出身地（茨城県かすみがうら市）は税収が少ないこと、保守的なこともあり、特に手当等の補助は少ない。

小平市内のある医療機関で障がいを理由に診療しないと言われた。別の医療機関でもひどいことを言われ、医療機関にかかるのが怖い。

夫婦の国民年金も少なく、これだけで生活していくのに不安。あと数年で夫のシルバーの仕事職もなくなると思うので、増々大変さが身にしみる。現在、私の医療費が障がいによる補助を受けられるのだけが救い。

（７）相談等について

＜主な意見＞

定年退職して一人暮らしで、今後のことなどケアマネジャーに相談したいが、どこに申し込めばよいか分からない。

右足の力がないので（左）の足がケガをしたら一歩も歩けなくなる。それがいつも心配でならない。今はなんとか歩いているが。車椅子になったらといつも頭から離れない。

重症者、軽症の方、色々だが、細かく調査し、お互いに助け合う組織があればいいと思う。

自立生活ができるか（住まいのこと）。病気のことが１番心配（目が不自由）。

保険を利用しての補装具を作る際の手続きを、もう少し簡単にして欲しい。例えば最寄りの医療機関だけでできるようにして欲しい。

162ページ

（８）余暇活動や社会参加、交流について

＜主な意見＞

通院以外の外出はほとんどなく、社会参加できていない。今後もこの状態が続くことは本人にとってどうなのかと思う。

市のサービスの中に、高齢者のための筋力、体幹アップのトレーニングや、体謝が悪くなるので、コレステロール（ＬＤＬ）を下げるための講習会等をセットで定期的に行ってほしい。そして、複数回の受講ができるようにしてほしい。

（９）地域生活や将来の暮らしについて

＜主な意見＞

問３２－１、電車を利用する際、切符の障害者割引の精算がインターホン越しでしかできない時「障害者手帳を持っている」と声に出したくない。特に青梅街道駅や新小平駅。この手帳の名前が、自分にとってコンプレックスの１つになっている若者がいることを忘れないでほしい。インターホン越しの駅で降車する場合、私はこの割引制度を諦めている。

親が高齢なため、親の体のことも考えながら一人で頑張ってくれている。毎日ヘルパーさんたちに助けてもらいながら、しっかり自分で生きて行こうと思っていることが伝わってくる。親としてずっと寄り添ってあげられないことに、とても申し訳ないと思うが、皆さんに助けてもらいながら、明るくずっと元気でいてほしい。ヘルパーの皆様に心より感謝している。

私は甲状腺癌で、今は不自由なく２人で暮しているが、難病の息子が一人で暮らすのに不安を感じている。本人は家の中では自由だが、歩けなく、腕が自由に動かず、外出も一人ではできない。次男が隔週来てくれるが、私の死後が心配である。近くの施設に入所予約ができたらと思う。

行政の窓口は平日昼間の利用が前提となっており、仕事に従事している場合は、相談や手続き上大きな制約となり利用できない。月に１回は土日に半日だけオープンしてもらうと助かる。

主人は７１歳で、それ程生活していくために特に目だった支障はない。私も今年７５歳になるため、今後、市の福祉政策のお世話になっていくものと思う。長男は先天性の身体障がい者のため施設に入所している（子どもは１人）。そのため将来に不安を持っている。

163ページ

（10）防災、防犯等について

＜主な意見＞

災害時避難所の使い勝手の悪さがある。

避難生活は団体の中では困難なので、何とか自宅で過ごすため、自宅に必要なものを届けてほしい。または、個別の部屋の用意をお願いしたい。

今は入浴も排泄も何とかなっているが、夫より介護２の両親の方が大変。災害時には私一人で３人を支えなくてはならない。父は排泄が厳しくなり、１日２回ベットメイキングが必要でこれから先が心配。

（11）情報等について

＜主な意見＞

補装具の利用支援（補助）等、分かりやすい説明（イラスト等による）があれば助かる。

高齢者、障がい者の立場・環境を考えてアンケートを作成して欲しい。

各種の申請書類のＷＥＢからのダウンロードや申請手続きの充実をしてほしい。

アンケートはＷＥＢによる回答がいいと思う。

（12）障がいへの理解や差別について

＜主な意見＞

内臓疾患のクローン病や発達障がいは、それに関する知識のない人から理解されにくいため困っている。上手く説明できる手段があると助かる。

健常者の方々は、未だに（障がいについて）理解していない。（例）平気で自転車置き場でない列に止めている。

現在障害５級のため、見た目や通常生活には支障がほとんどないが、通勤時のエレベーターの利用で学生の利用が非常に多く感じる。学校で、障がい者のために何をすべきかを教える必要があると思う。また、障がい者への理解度が社会的に低いのではないかと感じる言動があり、精神的にきついと思う（じろじろ見られる）。日本はまだまだ障がい者にやさしい国ではない。

最近ＴｉｋＴｏｋなどでも目にするが、手帳を持っているメリットなど、本来の目的ではなく、障がいだからと振りかざしているのに腹が立つ。本当に困っている人に（支援が）いってほしい。

障がい者の方が作った作品を市役所の玄関（入口）に見せているのは、とても良いことである。ルネこだいらにも展示している。

164ページ

２　知的障がいのある方

（１）介助者への支援について

＜主な意見＞

放課後等デイサービスでとても丁寧に見てもらえているのに、赤字となっているため補助してほしい。実際に行って見てどれだけ大切にしてくれているか見てほしい（環境を整える必要も見れば分かる）。

支援・介助してくださる方（作業所の職員さんやガイドヘルパーさん、グループホームの職員さんなど）が、不足していることが大変心配である。このような方々の手当を増やして、もっと給料が受け取れると、もう少し改善されるのではないかと思う。

（２）交通やバリアフリー、移動支援について

＜主な意見＞

移動支援を余暇だけではなく、学校や放課後等デイサービスの送迎に利用できるようにしてほしい。

市内小学校の特別支援学級のスクールバスについて、小学校３年生までスクールバスの利用が可能となっているが、学区外の児童、通学困難な児童に対して適切な配慮をしてほしい。

（３）施設等の入所や利用について

＜主な意見＞

現在通所している施設に入所ができたら嬉しい。

現在は施設で息子がお世話になっており、入所して１７年程たち、大変良くしてもらい感謝している。コロナ禍は面会や帰省が制限されたが、今までは月１回の面会や夏、冬の帰省などしてきた。まだしばらくは私どもも健康で本人を支えられると思う。

作業所やグループホームもよく指導していただき、親も娘も満足している。親も高齢

になり、感謝している。

（４）就労について

＜主な意見＞

就職中の仕事内容や職場の人間関係を知ってほしい。

165ページ

（５）福祉サービス等の利用について

＜主な意見＞

相談支援機関は当事者から相談を持ち掛けないかぎり、登録していても何も声かけ等対応がない。特に就労中であると定着支援の見守りや職場への訪問等がない。就職先が決定すると支援終了という感覚を感じる。障がい者本人からは言い出せないことが多く、精神的不安になっている。原因は支援者の人員不足で、サポート力が行き渡らない状況である。家族だけでは解決しないことが多い。

障がいの重い人（一般論として知的に低い人や身体障がい者など）は、だいぶ支援が充実してきていると思う（サービスや金銭面なこと）が、ボーダーくらいの人や知的には軽い人への支援はまだ少ないように思う。健常でもなく、障がい者にも入れない。

放課後デイサービスが市内に不足している。市内を利用したくても埋まっており、泣く泣く市外を利用している。何とか増やしてほしい。

11歳の子どものショートステイの利用を考えているが、どこも空きがなく、５年待ちと言われている。私（介護者）の両親は80歳を超え、母は認知症である。自分の体調が悪い時に、娘を一時預ってもらえるところが必要である。

（６）就学、学校生活等について

＜主な意見＞

通学について、スクールバスをもっと充実させてほしい。天候が悪い日など、子どもを連れてバス停までの移動が長く、不安を感じる。

（７）医療等について

＜主な意見＞

医療機関も１ヶ所に集約したくても中々うまくできない。

（８）相談等について

＜主な意見＞

20、30年後には（親亡き後）後見人が必要。法人で行ってくれる団体（または入所の施設の中で）で本人の年金管理や日常的な衣類や医療面の支援などを受けられるようになると助かる。自治体で今後そういう制度、体制を考えることを強く希望する。

（９）余暇活動や社会参加、交流について

＜主な意見＞

中学生の時から利用している放課後等デイサービスの青年クラブの活動に参加している。とても楽しみにしている唯一の余暇活動だが、法律の改悪で放課後等デイサービスが潰れてしまいそうである。優良な施設がずっと続けられるようにしてほしい。本当にささやかな楽しみを取り上げないでほしい。

166ページ

（10）地域生活や将来の暮らしについて

＜主な意見＞

将来に向けた経済面で不安が大きく、やるせない気持ちになる。今後どうしたらいいのだろうか。

プールの共通利用券を、夏だけでなく通年使えるようにしてほしい（枚数は20枚のままで良い）。他市であるように理容（美容）利用券を支給してほしい。

そのまま引きこもりになって、親が途方にくれているのが社会現象のように思う。要するに行き場所がない。安い賃金では自立もできず、親も高齢になり、不安を抱えている家庭が多い。

不安定で今後も心配。

生活介護に通所しているが、今後、ずっと生活介護で生活をしていくのだろうか。さらなる（生活介護からＢ型作業所への展望があると良い）希望というか、ずっとこのままでいる＝維持することも良いが、本人の努力や他者の支援で能力の向上を目指したいと考える。身辺の自立を向上ができる施設があると良い。身だしなみや排泄が自立することで、将来に向けて本人も親も安心すると思う。

（11）情報等について

＜主な意見＞

障がいのことをあまり知らない。どういう制度があるのかが分からない。より分かりやすい障がいの制度が知りたい。

手書きが得意じゃないので希望制でＷＥＢによる回答をさせてほしい。

（12）障がいへの理解や差別について

＜主な意見＞

日常生活には家族の支援やサポートがないと成り立たない。金銭の手当もない発達障がいの人たちなどにも、手帳の発行や支援を充実させてほしい。（障がいが）重くても軽くても、生活上の困りことは同じようにある。

保育所等訪問支援に対する保育園の対応（反応）があまり良くない。知識・理解不足を感じるので、行政から指導をお願いしたい。障がい者と交流するイベントなどがあれば、差別や偏見が少なくなるかもしれない。

167ページ

３　精神障がいのある方

（１）介助者への支援について

＜主な意見＞

介護をしてきた者だが、病の本態が分からず、あやふやの内に病人と生活してきた。最近やっと病人に対する見方・考え方が変わりつつある（少し遅すぎたが）。困っている人の支援をお願いしたい。

（２）交通やバリアフリー、移動支援について

＜主な意見＞

バスに乗る際（降りる際）毎回障害者手帳を提示するのが大変。パスモやスイカでタッチするだけで障害者割引ができるようになるとありがたい。

市内の交通機関が身近にないので、コミュニティバスをオンデマンド式に、市内の買い物、病院に連れて行ってくれるサービスを無料で提供してもらえると助かる。

歩いている時に後ろから接近してくる自転車にベルを鳴らされ、音に驚く。道路整備（安心して歩ける街）でもアイデアがあれば考えて欲しい。

精神障がい（不安障害）であり、外に出る気はあるが、本人一人では難しい。うまく準備ができず、心身状態が悪化し、結局外に出られないことが多い。一緒に外出の準備をしてくれるヘルパーが必要だと何年も前からいろいろな機関に相談しているが、「小平市は精神につけられない」などと聞く。社会参加の機会を閉ざしているのではないか。

（３）施設等の入所や利用について

＜主な意見＞

短期入所の制度の捉え方に違和感を感じる。障がい者を支援する家族等の用事、休養が目的のようだが、障がい当事者の心身の安定のため、入院ではなく、早期に日常生活に戻るために利用するという目的で、制度を使っても良いと考えてもらいたい。

（４）就労について

＜主な意見＞

地域活動支援センターがハローワークのような存在というか、雇用元となり、仕事をそこに通うメンバーに提供する形にしてほしい。孫請けのような形。コミュニケーションにとても不安があるので、２人組などで仕事ができれば少し楽に仕事ができるのではと思う。作業所の正社員は入っては辞め、求人しても入って来ないと聞く。一人の負担を複数人に分けられるように、障がい者でもできる仕事は積極的に給料（最低賃金）を出して雇用するのはどうかと思う。

168ページ

憲法の勤労の義務に反するので難しいかもしれないが、教育にお金を費して有能な人材を育成し、一般の会社で健常な人と同じように障がい者が働けば、結局は社会にプラスになるのではと思う。

就労に向けての相談、サポートを充実させてもらいたい。

自宅でできる仕事の情報がほしい。

幸い私は正社員として就労できているが、収入が不安定だと症状の出方が強く出てしまうなど、自分と向き合う余裕がなくて、悪循環に陥ってしまうのではないかと思う。

（５）福祉サービス等の利用について

＜主な意見＞

親が安心して子どもを育てられる福祉を望んでいる。

福祉には概ね満足しているが、自分は病気が良くなりきらないので、上手く書けないが、医療と福祉の連携に力を入れて欲しい。

（６）医療等について

＜主な意見＞

解離性障害の病状など、情報の普及、治療方法の拡大、治療場所の拡大を望む。

（７）相談等について

＜主な意見＞

学校を卒業し、働きたい意欲はあるが、もっと指導や相談にのってくれる機関が小平市に増えて欲しい。支援してくれる場所があるというアピールが足りない。

自宅の近くにも「地域生活支援センターあさやけ」のような所があるとありがたい。「あさやけ」は遠く、私は仕事もできないし、家族以外に親しくできる方が近くにあまりおらず、日により体調の良し悪しがあり、人と約束して会うことも難しいため、気楽に行ける所が欲しい。

（８）余暇活動や社会参加、交流について

＜主な意見＞

現在、一人暮らしで生活している。これも皆さまのおかげと考えている。人の和（輪）を大事に支えてもらえている感がある。

169ページ

（９）地域生活や将来の暮らしについて

＜主な意見＞

いつも見守りや支援をしてもらい感謝している。母の私も高齢になり不安を抱えながら、障がいのある娘を支援している現状がある。娘は仕事が好きで、生きているうち、できるうちは仕事を続けて生きてゆきたいと希望しているため、一人になっても頑張ってほしいと思っている。

現在は障害者年金を受給し始めたため、経済的な不安は少し解消してはいるが、いつまで継続できるのか不安は残る。今後、子どもを作る等の計画も進めて大丈夫かと判断できない状態が続いている。

年々、社会復帰から遠のいているようで不安に感じる。

（10）生活支援、経済支援等について

＜主な意見＞

いじめにあわないため、大学の博士をとったり、資格をとって将来を楽しく過ごすためには経済面が不足している。

精神障がい者への支援が少なく、限定的で困っている。特に金銭面で困っている。

障害者手帳等を更新する際の診断書を費用が高額で、経済的な負担となっているため、他市のように助成制度があると助かる。

（11）情報等について

＜主な意見＞

ホームページ以外で情報を掲載しているところを知りたい。

障害年金についての情報や支援金について、もっと詳しく知りたい。定期的なホームページの更新や障がい者に向けた発信、その家族への発信があればいいと思った。絵や図を使った説明があると分かりやすく感じる。

（12）障がいへの理解や差別について

＜主な意見＞

障がい者は人の手を借りることも多いが、希望を持って日々一所懸命生活していると思う。多様性を受け入れ合い、助け合える社会になってほしい。私自身はヘルプカードを身につけても利用できたことはなく、見た目は健康なのか、しんどいことがあまり人に分かってもらえない。

２年前の朝突然歩けなくなり、右足が赤く腫れ、運ばれたが、病院の先生は、なぜ心療内科に通院しているのかを聞き続け、足を見ず治療も何もしなかった。１年以上経って骨折が分かり、それ以来普通に歩けなくなり、今も痛みに苦しんでいる。それ以来病院が怖く信じられなくなってしまった。

170ページ

４　難病等の方

（１）交通やバリアフリー、移動支援について

＜主な意見＞

小平でもタクシー券など出してもらえたらと願う。

（２）施設等の入所や利用について

＜主な意見＞

難病患者が少額負担で安心して暮らせる施設をつくって欲しい。

（３）就労について

＜主な意見＞

体のこともあり、事務系の仕事で可能であれば正社員（社会保険等に入りたい）になりたいが、なかなかうまくいかない。やむを得ず病院で派遣で働いていたが、業務の内容が変わって契約を切られた。社会保険の加入条件に満たなかったので、何の手当もなかった。福祉のみでなく、労働の分野でも将来の備えをしつつ、経済的自立を達成できるようにきちんとした制度ができて欲しい。

（４）福祉サービス等の利用について

＜主な意見＞

福祉手当の増額を検討してもらえたら嬉しい。

５）医療等について

＜主な意見＞

今はまだ経済的に苦ではなく、市の援助金でおむつを買ったり、病院での負担に使わせてもらっている。

約３年前難病を発症し、快方に向かって暮らしている。快方に向かうのは一番の望みであり嬉しいが、今回から難病の医療費助成から外れてしまった。快方に向かっていても医療費はほぼ同額かかるので、今後の負担を考えると不安だ。

171ページ

（６）生活支援、経済支援等について

＜主な意見＞

今後、経済力がなく、市の援助金では足りなくなるのではないかと今から不安になる。

身体障がいがない難病、内部障がい者にも支援を広げてもらえると助かる。特に薬代が高く、経済的支援がもう少しあればといつも思う。

腰の痛い時は友人の車で病院に乗せて行ってもらっているが、数年後には介護が必要になる時が来るかもしれない。

（７）障がいへの理解や差別について

＜主な意見＞

難病が原因で次々と内臓、骨、皮フ等々新たな病気が広がり、だんだん日常生活ができなくなっている。障がいとは少し違うかもしれないが、治療法もなく、年と共に苦しい日々だ。

見えているようで見えていない、見られていない部分なのではないか。少しずつでも健常者と一緒に生活できる社会になっていったら良いのではないかと思う。

172ページ

５　発達障がいのある方

（１）交通やバリアフリー、移動支援について

＜主な意見＞

放課後等デイサービスの施設の送迎をより充実させてほしい。

（２）就労について

＜主な意見＞

就労継続支援Ａ型がもっと増えたら良いと願っている。

（３）福祉サービス等の利用について

＜主な意見＞

放課後等デイサービスの施設数、受入枠が少ない。そのため、選択肢が限られてしまう。療育は必要なので充実を希望する。就学してからの放課後や長期休暇の子どもの居場所が確保できない。

一貫して相談できるところがない。その都度一から各機関に説明するが、相談内容も限られてしまう（療育をはじめたら病院に、学校に行きはじめたら学校になど。そこに関することは相談できるが、それ以外のことまでは相談しづらい）。

今後変わっていくことを期待している。

（４）就学、学校生活等について

＜主な意見＞

小学１年生１学期で学校からも指摘を受け、やっと診断が出て通級に行くようになったが不登校になった。

学校では教員の研修をお願いしたい（人権、障害者差別解消法）。

来年度から小学校の支援級に入学予定だが、安心して通えるか心配だ。もし不登校になったら、私（母親）がとてもきつい状態になると思うので、とても不安だ。

発達障がい児への対応は個々に違うため、先生方の理解の充実を高め、正しい配慮をしてもらいたい。学校での配慮、こちらの要望を聞いてもらうのに親の労力が大きく、心の負担が大きい。専門性の高いソーシャルワーカーなどに中間に入ってもらい、配慮してほしい（なかなか配慮してくれず、子どもが二次障害で苦しんだので）。学校の先生に今までに例のないイレギュラーなことをお願いすると、検討もせずできないと断られる。教育委員会では無理なことではないと言われたがなぜなのか。

発達に凹凸あり、小学校時代不登校になり、居場所がなかった。小学生向けの不登校サポートや居場所、何も情報がなかった。私も子どもも孤独で苦しかった。中学生になっても、みんなと同じことができなかった気持ち、淋しかった不安は消えない。

173ページ

（５）相談等について

＜主な意見＞

自閉症があり、現在通級に通っているが、通級の利用は原則１年と聞いている。本人や家族がサポートを必要としていれば、高学年まで継続して見守って欲しい。また、通級は学習面のサポートはできないそうなので、現状個別塾や放課後等デイサービスを利用するしかないと聞いている。学校の放課後等をサポートしてくれるサービスができたら嬉しい。

（６）生活支援、経済支援等について

＜主な意見＞

子どもに障がいがあるかもしれないと分かってから市の支援等を受けてきたが、初めてのことばかりで分からないことだらけなので、市の職員がもう少し丁寧に教えてくれると、気持ちにも余裕が持てて助かると思う。

（７）情報等について

＜主な意見＞

相談できる医療機関が少ない、混んでいる。子どもの発達遅延に気がついても、相談できる場所が少ない。早く療育に通いたいのに、そこまでたどりつくまでに時間がかかる。待ちが長い。情報が少ない。発達グレーと言われている子の受け皿がほとんどなく、時間だけが過ぎていく。

（８）障がいへの理解や差別について

＜主な意見＞

目に見えない障がいだからこそしんどいなと思うことがよくある。どうしても、自分の育て方のせいなのではないかという思いが払拭できず、精神的に辛くなることが多い。

発達障がいがあると親が思って相談に行くのに「様子を見ましょう」と幼児の時に言われ続け、適切な支援を受けられないまま小学生になった。居場所もなく、毎日をつまらなく過ごすことも多い。ちゃんと困っている子どもに支援が届くようにして欲しい。そして不登校の子の受け皿を増やして欲しい。

174ページ

空白のページです。

175ページ

第４章　付属資料（調査票）

176ページ

空白のページです。

177ページ

１　身体障がいのある方

177ページから196ページまで身体障がいのある方の調査票が記載されています。

197ページ

２　知的障がいのある方

197ページから210ページまで知的障がいのある方の調査票が記載されています。

211ページ

３　精神障がいのある方

211ページから220ページまで精神障がいのある方の調査票が記載されています。

221ページ

４　難病等の方

221ページから230ページまで難病等の方の調査票が記載されています。

231ページ

５　発達障がいのある方

231ページから238ページまで発達障がいのある方の調査票が記載されています。

第七期小平市障害福祉計画・第三期小平市障害児福祉計画策定のためのアンケート調査結果報告書

発行年月　令和５年３月

編集・発行　小平市　健康福祉部　障がい者支援課

住所　〒１８７－８７０１　小平市小川町２丁目１３３３番地

電話番号　０４２－３４６－９５４０

ＦＡＸ　０４２－３４６－９５４１

メールアドレス　syogaisyashien@city.kodaira.lg.jp

価格６５０円

※この報告書には再生紙を使用しています。